宇都宮市立富士見小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。」の問いでは、肯定的回答が75.8%で県の平均を6.4ポイント上回った。さらに社会や自分の身の周りの理解へとつながられるよう指導していきたい。

●「家の人と学校でのできごとについて話している」の問いでは、上位層と下位層の差が大きく、両極化が窺われる。今後は、家の人とのコミュニケーションは、学力との相関が示されているので、個人懇談や保護者会でもその必要性を話していきたい。

●「難しい問題にであうと、よりやる気が出てくる」の問いでも上位層と下位層の差が大きく、両極化が窺われる。グループによる指導や複数での学習活動等で適切な指導をし、多くの児童が達成感を得られるように支援していきたい。「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」の問いでも同様の状況であった。根気強く、最後まで調べることの大切さを説き、継続できるよう指導していきたい。

●「グループなどでの話し合いに自分から参加している」の問いでは、肯定的回答が67.7%で県の平均を9.1ポイント下回った。3人や2人などの小グループでの話し合いを増やし、参加している充実感、満足感が得られるようにしていきたい。

○「家で自分で計画を立てて勉強をしている。」では、81.3%で県の平均を9.9ポイント上回った。さらに意欲が増し継続していけるよう授業の予習、復習等のやり方を助言していきたい。

○「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の問いでは、71.8%で県の平均を9.5ポイント上回った。その創造性をさらにより方向に行かせるよう、助言していきたい。

●「次の教科の問題を解くのに時間は十分でしたか。」の問いでは、国語61.3%算数58.9%理科79.0%でいずれも県の平均を国語7.3ポイント、算数17.4ポイント、理科8.8ポイント下回った。問題を解くのに時間を計測する、できる問題から解いていくなどの指導をしていきたい。

宇都宮市立富士見小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着	朝の学習を活用して漢字・計算の定着を図る	4年生はすべての項目で県の平均を上回っているが、5年生は特に算数で県の平均を下回っているものが多い。
学習習慣の確立	各学年ごとに「家庭学習のすすめ」を配付し、学習のめあてや取組例を示し、主体的に取り組めるようにする。	「家で宿題の他に自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答は、4.5年生ともに県の平均と比べて上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
記述式設問の無回答率	個別に対応した既習事項の丁寧な復習	算数科におけるチームティーチングや習熟度別学習の実施